# 令和８年１１月定例会一般質問発言通告表

| 発言順序 | 1 | 議席番号 | １３ | 氏名 | 辻　村　岳　瑠　　議員 | 1／3 |
|---|---|---|---|---|---|---|

| 発言項目 | 要旨 | 答弁者 |
|---|---|---|
| 1　介護人材の確保と地域医療を支える体制づくりについて | 令和８年９月定例会の一般質問で、新たな地域医療構想を支えるには介護人材が不可欠であるとの認識を市と共有できた。この認識を具体策につなげるため、障がい者雇用、外国人介護人材、病院と施設の連携の３点を伺う。<br>(1)　特別支援学校卒業生等の介護関係への就労状況を伺う。また、介護周辺業務の切り出しを市がつなぐことへの見解を伺う。<br>(2)　外国人介護人材の受入状況と課題を伺う。また、住居確保に向けた市営住宅の目的外使用の根拠、手続、課題を伺う。<br>(3)　新たな地域医療構想では、医療と介護の連携が求められている。富士宮市立病院における退院支援の体制と、介護施設との連携の実態、課題及び今後の改善方策を伺う。 | 市　　長<br>副 市 長<br>教 育 長<br>病 院 長<br>関係部長 |
| 2　田舎から創る、人口減少社会におけるまちづくりについて | 本市が掲げる将来都市像には、先人が守り続けてきた農地と田園風景も含まれる。人口減少が叫ばれているが、農業の担い手の減少はそれ以上に深刻である。平成22年から令和17年頃にかけて、本市の人口は約16％減少する見通しである一方、個人農業経営体は41.5％減少する見通しである。これは農政部門だけの課題ではなく、人口減少という社会構造の変化に起因する全市的な課題である。社会構造が変わるのであれば、政策の在り方も変えていく必要がある。今、農地を守る政策から、農地を守る人も守る政策へと視野を広げる必要があると考え、以下３点を伺う。<br>(1)　平成21年度から令和５年度までの14年間で、全国の農業経営体数が約47％減少した一方、有機農業者数は約6.8％増加している。また、新規参入者への調査では42％が有機農業に取り組んでいるまたは今後取り組みたいと回答している。<br>本市は富士山麓に位置し、傾斜地など条件不利農地の遊休化が懸念されている。本市の農地の特性を踏まえ、大規模農業経営体の誘致や雇用就農の促進に加え、有機農業を志向する新規参入者の受け皿づくりを、担い手確保の一つの戦略として積極的に進めていくことについて、市当局の認識を伺う。<br>(2)　新規就農者の約４人に１人が住まいの確保に苦労していることが、業務必携に示されている。農業の担い手が急速に減少する中、新たな担い手を積極的に呼び込むためには、農地のあっせんにとどまらず、農地と住居を一体的に確保する政策へと展開していく必要があると考える。しかし、こうした取組は農政部門だけでは限界があり、部署を超えた対応が必要と考えるが、市当局の認識を伺う。<br>(3)　農地は耕す人だけでは守れない。水路の管理、草刈り、鳥獣被害対策は、地域に人が暮らしてこそ成り立つ。農地を守るためには、耕す人と暮らす人をともに呼び込む視点が必要である。<br>一戸建て住宅の建築確認申請件数は、旧芝川地域で約77％減少した一方、市街化区域では約16％の減少にとどまる。 | 市　　長<br>副 市 長<br>教 育 長<br>関係部長 |

# 令和８年１１月定例会一般質問発言通告表

| 発言順序 | 1 | 議席番号 | １３ | 氏名 | 辻　村　岳　瑠　　議員 | 2／3 |
|---|---|---|---|---|---|---|

| 発言項目 | 要旨 | 答弁者 |
|---|---|---|
| | こうした中、第５次総合計画において、14か所の集落拠点地域を政策推進エリアに位置づけたことは、市街地だけでなく、集落の維持・活性化を通じて市全体の持続性を高める先見的な取組であり、高く評価する。その考え方を実効性のある政策につなげるため、以下伺う。<br>①　集落拠点地域を定めた目的、これまでの施策及びその成果を伺う。<br>②　集落拠点地域とそれ以外の地域における土地利用の考え方及び移住・定住、二地域居住など、新たな人を呼び込む可能性について伺う。<br>③　農地の保全と集落の維持を一体的に進めるため、企画部門を司令塔とした横断的・戦略的な推進体制が必要と考えるが、市当局の見解を伺う。<br>④　その実現に向けた有効な制度や方策、市・県・国の役割を伺う。 | |
| 3　森を守る人を支える、森林環境譲与税の活用について | 森林整備は、県の森林づくり県民税と、市の森林環境譲与税の両輪で進む。中でも、これまで手が入りにくかった小規模な森林に目を向けた小規模森林整備事業は、森林環境譲与税の活用策として大きな可能性を感じている。その森林整備は、担い手に支えられている。整備の実績、譲与税の活用、担い手とボランティアへの支援の３点を伺う。<br>(1)　小規模森林整備事業の直近３年間の補助件数、補助金額、整備面積を伺う。<br>(2)　森林環境譲与税の、譲与額、執行額、基金残高の推移を伺う。また、今後の活用方針を伺う。<br>(3)　森林を守る担い手を支えるため、市内の育成経営体における新規就業者の確保・育成と、森林づくりに取り組むボランティア団体の活動に向けて、森林環境譲与税を活用した次の支援制度の創設を提案するが、市当局の見解を伺う。<br>①　育成経営体の新規就業者に対する、安全装備品の購入費と講習受講費用への助成について。<br>②　育成経営体における森林の集積・集約化に向けた、専門家の派遣について。<br>③　ボランティア団体による、植樹等の森林づくり活動への支援について。 | 市　長<br>副市長<br>教育長<br>関係部長 |
| 4　転換期における富士宮まつりの継承と市民参加について | 昭和30年代後半に衰退した富士宮まつりが、昭和40年代に地域の人々と行政が一体となって復興に取り組んだことで、今日の富士宮まつりがあり、かつての転換期に行政が果たした役割を高く評価する。そして今、人口減少という新たな転換期を迎えている本市においても、学校の休業日に関する働きかけなど、市民が参加しやすい環境づくりに努めていることは承知している。こうした取組をさらに発展させ、これまで祭りを支えてきた人々を大切にしながら、その輪を広げていくことが重要と考え、以下伺う。 | 市　長<br>副市長<br>教育長<br>関係部長 |

# 令和８年１１月定例会一般質問発言通告表

| 発言順序 | 1 | 議席番号 | １３ | 氏名 | 辻　村　岳　瑠　　議員 | 3/3 |
|---|---|---|---|---|---|---|

| 発言項目 | 要旨 | 答弁者 |
|---|---|---|
| | (1)　各区が受け継いできた伝統や自主性を尊重するとともに、11月４日の本宮を大切にしながら、より多くの市民が祭りに参加できる環境を整えていくことは、祭りの継承のみならず、新たな観光振興にもつながると考えるが、市当局の認識を伺う。 | |